

令和3年度入学生用 カリキュラムチェックリスト
 《薬科学教育部博士後期課程 創薬科学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	科目の教育目標
			広範な教養及び高度な専門知識・技能を身につけ、創薬に関する未知の課題に対し自立した創薬・製薬研究者として自ら研究計画を立案でき、問題解決に向けた研究推進能力を有し、後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。	医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ、自立して行動できる。	国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。	
専門科目	創薬研究実践特論		◎			薬学系独自の特色ある創造性豊かな創薬科学研究を展開するうえで、創薬科学研究者・教育者として必要不可欠な学際的専門知識の修得を目的とする。
	創薬科学演習		○	○	○	原則として所属分野における演習を履修する。最新の国際誌学術論文を紹介し、研究分野への理解と研究動向の把握、英語論文の読解力、プレゼンテーション力、質疑応答能力等を養う。また、指導教員が、担当の大学院生と相談し研究題目を設定後、研究の進め方や実験方法の教授ならびに実験結果のまとめの助言を行い、研究成果を博士論文にまとめる。
	ケミカルバイオロジー共通演習		◎			薬学分野の基礎となるケミカルバイオロジー基礎研究を遂行するために、国内外の最先端研究について理解を深める。この演習は、受講生のプレゼンテーション能力や質疑応答力の向上も目的としており、積極的に発表・討論に参加してもらう。
	機能分子共通演習		◎			機能性分子に関する幅広い知識を修得する。本科目は演習であり、自分の学習した知識を整理し、プレゼンテーション能力や質疑応答力を向上させる。
	専攻公開ゼミナール		○	○	○	自身の関連学術に関する総説を作成し、薬科学教育部が合同で開催するゼミにおいて総説に基づいた発表・質疑応答を行い、論文執筆能力の向上、プレゼンテーション能力の向上を目指す。
	資源・環境共通演習		◎			地球環境及び人類の健康への貢献のための薬物探索、衛生化学及び分析化学の方法を身につける。